

令和元年度東海・北陸ブロック 老人クラブリーダー研修会



令和元年度「東海・北陸ブロック」老人クラブリーダー研修会が6月27日・28日の2日間の日程で富山市「呉羽ハイツ」で行われました。各地



区の人老人クラブ連合会代表者186名が参加、メインテーマ「のばそう！健康寿命、抱おう！地域づくりを」のもと、基調報告・講演・事例発表・パネルディスカッションなどが行われ、老人クラブのリーダーとしての研鑽を積みました。

【1日目】

午後2時より多目的ホールで開会。主催者あいさつと来賓祝辞に続き、岡本まゆみ全老連業務部長から「5か年の会員増強運動と今後の方向」と題して基調報告があり、今春終了した「100万人会員増強運動」の総括と今後の方向性が示されました。

休憩を挟んで砺波市で厚生労働省在宅医療連携拠点事業所として地域医療を実践している「ものがたり診療所」所長の佐藤伸彦氏から「地域包括ケアと在宅医療」と題して講演がありました。

地域包括ケアでは、人とのつながりで面倒な側面があっても、いざという時に助かることを認識し、どのようにすれば、共に楽しく地域づくりが進められるのかを考える姿勢が大切と強調しました。

また、在宅医療では、患者の生活を中心に据え、その人の生活（ものがたり）が認識できるようにすることがケアの上で重要であるとし、ケアを必要とする方が具体的に何をどこに相談すればいいのか分からないといったケースも念頭に入れ、なんでも相談で

令和2年度 名古屋市長への 予算要望書を提出

7月18日、来年度の予算編成を前に、なごやかクラブ名古屋（市老連）の三浦芳隆会長はじめ犬飼謙治、小池吉彦、加納年子各副会長が名古屋市の行政支援についての予算等の要望のため名古屋市役所を訪れ、山田俊彦長寿社会企画監に市長あての要望書を提出しました。

善するため、会員数100名以上の大規模老人クラブへの補助金を年額10万円に増額していた



三浦会長は、「近年クラブ数や会員数の減少に歯止めがかからない状況にある。そのような状況を改善するため、会員数100名以上の大規模老人クラブへの補助金を年額10万円に増額していた。多くの会員の勧誘活動にも励みになるよう

三浦会長は、「近年クラブ数や会員数の減少に歯止めがかからない状況にある。そのような状況を改善

たい。また単位老人クラブ会長の高齢化の進行により補助金精算報告が大変負担となっていますので、老人クラブ運営補助金申請・精算報告の簡素化と適切なご指導をお願いしたい」等要望しました。

市側からは、「補助金の増額及び運営補助金申請・精算報告の簡素化については、市老連と協議して検討させていただきます」とのお話がありました。

なごやかクラブ
生活安全標語

「気をつけよう！...うまい話には裏がある」

おいしいだけの話なんて無い、不都合な真実を隠していると思いませんか？

きる場をつくる
ことが大切であると説かれました。

【2日目】

午前8時30分より「いきいきクラブ体操」でスタート。その後、3地区の事例発表とパネルディスカッションがありました。



迎え、司会者の進行のもと、各自の取り組み・問題点・抱負などが紹介されました。参加者一同は今後の地域包括ケアシステムの深化に向けた老人クラブ活動の可能性について思いを馳せました。

パネルディスカッションは今年度からの試みで、地域包括ケアシステムを支える多様な立場の方々をパネリストに

最後に、次回開催地の三重県から西川明正県老連会長のあいさつがあり、富山県老連の金山圭子副会長の閉会のことばで2日間にわたる有意義な研修会が終了しました。



令和元年度 新任会長研修会

7月9日、昭和文芸小劇場において、令和元年度新任会

ぜひクラブの舵取りに生かしていただきたい」と参加者に向けて呼び掛けました。

続いて塚原義政研修委員長から「老人クラブの組織と活動」と題した講義があり、老人クラブの組織、目的と性格、運営の原則が紹介され、最後に「老人クラブリーダーについて（役割・心得）10カ条」が掲げられました。

次に名古屋健康福祉局高齢福祉課の小川正洋企画係長から「名古屋市老人クラブ運営補助金について」と題して、対象となる活動、申請手続きの流れ、補助対象となる経費の例、申請書類の書き方などの説明がありました。

その後、休憩を挟んで、名古屋大学大学院医学系研究科・地域在宅医療学・老年科学講師の大西丈二氏より「地域包括ケア時代の老人クラブ」と題した講演をしていただきました。



話が必要知識など参考になる話が多様化する中で、老人クラブ運営は苦労が多いと思いますが、今日習得したことを

必要知識など参考になる話が多様化する中で、老人クラブ運営は苦労が多いと思いますが、今日習得したことを